

作期分散可能な大豆品種の選定と安定多収栽培技術の開発

(委託プロ：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立)

【令和2～6年度】

【課題化の背景】

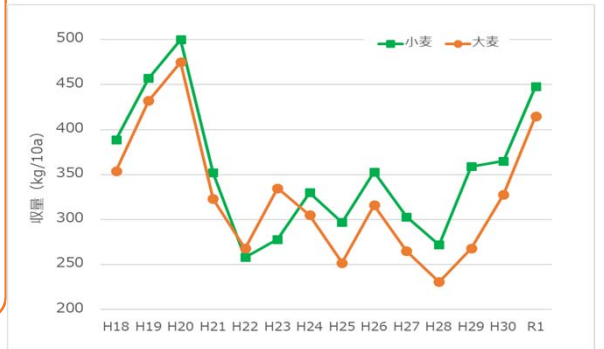
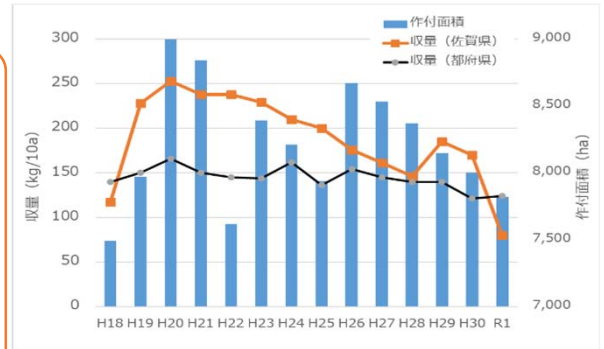
○近年の麦・大豆の単収低迷や生産量の不安定さが問題となっている。

【大豆】

- ①梅雨期の播種
→ 苗立不安定、遅播きでの低収
- ②梅雨後半の多雨と梅雨明け後の干ばつ
多雨 → 湿害、根粒菌の減少、立枯病の発生
干ばつ → 生育抑制、落花・落莢
- ③収穫時期の遅れ
→ 後作麦の播種遅れ・・・収量低下

【麦類】

- ①播種前の降雨と排水不良、前作残茬の被覆による圃場乾燥の遅れ
→ 播種遅れ、生育抑制
- ②暖冬による生育の前進化や2月以降の多雨など
→ 葉色の低下による生育抑制や湿害の発生
・ 気象による生育差に管理が対応できていない



【試験研究内容】

大豆

6月中旬～7月中旬播種を可能とする品種選定と播種技術の開発

- ①品種の選定
早播・加工適性
(耐高温・耐倒伏・難裂莢)
- ②栽培技術
早播
畝立播種
播種密度



麦類

麦の生育に応じた管理技術の実証と多収品種の探索

- ①栽培技術
後期重点施肥
密条播種
- ②品種の探索
多収品種



共通・センシング

播種前の排水対策の効果と生育期間中の適性土壌水分量の解明

排水対策・
土壌水分管理技術



【目標と期待される効果】

- 品種＋栽培技術の組み合わせによる安定生産技術の確立・実証
- 大豆3割・麦類1割の多収の実現

○高品質麦・大豆の安定生産

- 実需者・消費者の継続的な需要
- 麦大豆産地としての信頼向上

○大豆収穫時期の前進

- 冬作物の安定生産
- 農家所得の向上



水田営農のフル活用
による持続的発展

佐賀県農業試験研究センター作物部
作物育種・作物栽培研究担当
Saga Pref. Agr. Res. Center